

大会名 Competition	第72回 秋田県男女総合バスケットボール選手権大会 兼全日本バスケットボール選手権大会1次予選会
男子決勝	Year Month Day Time 2017年 4月 16日 14:00
場所 Place	CNAアリーナ★秋田



秋田県バスケットボール協会

チームA <b>J R 東日本秋田</b> 129 ○	<table border="1"> <tr><td>31</td><td>1st</td><td>12</td></tr> <tr><td>31</td><td>2nd</td><td>18</td></tr> <tr><td>36</td><td>3rd</td><td>14</td></tr> <tr><td>31</td><td>4th</td><td>22</td></tr> <tr><td colspan="3">OT</td></tr> </table>	31	1st	12	31	2nd	18	36	3rd	14	31	4th	22	OT			チームB <b>平成高校</b> 66 ●
31	1st	12															
31	2nd	18															
36	3rd	14															
31	4th	22															
OT																	

主審:Referee 小川 裕之 秋田  
副審:Umpire 田村 高光 秋田  
中道 凌平 秋田  
テーブルオフィシャル:Table officials 県協会 T O 委員会

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
3	×	大矢	孝太郎	4	0	2	0	1	4	×	宮崎	恭輔 <sup>CAP</sup>	21	0	7	7	4
7	/	森	知史	18	0	7	4	4	5	×	岸	重人	11	1	3	2	4
8	/	志	水一希	0	0	0	0	3	6	×	遠藤	里玖	10	0	4	2	2
9	×	石橋	拓	8	0	4	0	1	7	/	佐野	瑠夏	-	-	-	-	0
11	/	鈴木	隆史	27	4	6	3	4	8	×	樋渡	竜雅	14	1	5	1	2
12	/	根岸	城二	6	0	3	0	0	9	/	川村	歩夢	0	0	0	0	0
15	×	柳澤	洸太	6	0	3	0	1	10		野本	聡	-	-	-	-	0
24	/	高橋	純	5	1	1	0	0	11		加藤	大貴	-	-	-	-	0
26	/	平塚	貴将	2	0	1	0	0	12		後藤	光葵	-	-	-	-	0
30	/	舘	龍星	2	0	1	0	2	13	/	高橋	凜	10	2	1	2	1
33	×	佐藤	光 <sup>CAP</sup>	10	0	5	0	2	14		小野	大和	-	-	-	-	0
34	/	菊地	啓志	8	1	2	1	1	15		伊藤	魁	-	-	-	-	0
39	/	櫻庭	朋久	3	0	1	1	3	16		柴田	吏輝	-	-	-	-	0
91	/	斉藤	大輔	11	1	4	0	2	17		工藤	駿介	-	-	-	-	0
99	×	山崎	涉真	19	2	5	3	1	18	×	石川	政稀	0	0	0	0	0
				-	-	-	-	0	19	/	岸	龍聖	0	0	0	0	0
				-	-	-	-	0	20		阿倍	凌太郎	-	-	-	-	0
				-	-	-	-	0	21		鎌田	凜	-	-	-	-	0
コーチ		柿崎	智弥						コーチ		佐々木	信吾					
アコーチ		黒政	成広														
合計				129	9	45	12	25	合計				66	4	20	14	13

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P\* イントシュート 2P:2P\* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

第1ピリオド:両チームともマンツーマンのディフェンスでスタート。JR東日本秋田は、#99山崎、#9石橋、#33佐藤などのシュートにより得点を重ねる。12対0となった時点で、平成高たまたまタイムアウト。直後平成高、#4宮崎のタップシュートで初得点。平成高は足を使った激しいディフェンスから、速攻により、#4宮崎が連続得点。対するJR東日本秋田は#11鈴木の得点等により、31対12でJR東日本秋田のリードで第1ピリオド終了。

第2ピリオド:JR東日本秋田は立ち上がり高さでパワーを活かした、オフェンスとディフェンスで主導権を握る。対する平成高は、#13高橋の3PTSを成功させるも、42対20となった時点で、前半2回目のタイムアウト。その後、平成高、#6遠藤のバスケットカウント、#8樋渡、#5岸のミドルシュートにより必死に食い下がる。JR東日本秋田は#34菊地の3PTS、#24高橋の3PTSブザービーターにより、62対30で前半終了。

第3ピリオド:JR東日本秋田は、#33佐藤のジャンプシュート、#99山崎の連続3PTS、#9石橋のタップシュートによりリードを広げる。対する平成高はスピードと気迫のこもったディフェンスで活路を見出そうとするが、なかなか点差を詰める事が出来ない。結局、98対44とリードを広げられて第3ピリオドを終了。

第4ピリオド:疲れの見える平成高に対し、JR東日本秋田は、高さのある、#30舘の攻守にわたる活躍により得点を重ねる。平成高はオフェンス、ディフェンスの両面でリバウンドの意識を全員が高く持ち、かつ積極的なドライブにより相手のファウルを誘い、攻撃のチャンスを幾度となく作る。平成高、#6樋渡、#13高橋の3PTSにより反撃するも、JR東日本秋田は終始、高さでパワーを活かし、試合を終始優位に進め、129対66で勝利。7大会連続13回目の優勝を飾った。